

## 支 部 活 動

## 九州支部

## □第36回

## 日本肺癌学会九州支部会

平成8年7月11日(木), 12日(金)

宮崎県医師会館

当番幹事 渡邊克司

(宮崎医科大学放射線医学講座)

## 1. I期肺癌切除症例の検討

国病九州医療センター呼吸器外科

坪井貞樹, 竹尾貞徳, 藤井大輔

力丸英明, 山下継史, 古山正人

同 呼吸器内科

古賀英之

矢野敬文

同 放射線科

安森弘太郎

村中 光, 鷺海良彦

当院における病理病期I期肺癌切除症例の手術成績と, その予後を決定する因子について検討したので報告する. 1996年3月までに当院で施行した原発性肺癌切除例は123例でその内64例がI期肺癌であった. 今回これらの予後とその因子について検討をする.

## 2. pN1非小細胞肺癌切除例の検討

大分県立病院胸部外科

山岡憲夫, 内山貴堯, 中村昭博

森永真史

当科で切除した非小細胞肺癌558例中N1の55例につき予後を検討した. N1の5生率は44%で, 有意にN0より不良でN2より良好であった. 転移リンパ節部位別に#10, #11, #12~13で分けたが予後に差はない. T3T4とM1

例を除く40例では#12~13に転移ある例が他の部位に比べ予後良好の傾向があった. 組織型別でAdの5生率は37%でN2例と差がなく不良であったが, Sqは61%で, N0例と差がなく, 比較的良好的な予後が得られた.

## 3. 腫瘍径15mm以下末梢小型肺癌切除症例の検討

大分県立病院胸部外科

中村昭博, 内山貴堯, 山岡憲夫

森永真史

原発性肺癌切除例の6.1%35例が腫瘍径15mm以下の末梢型小型肺癌であった. 男性15例, 女性20例と女性が多かった. 検診発見が30例を占め, 最近では偶然のCT発見が2例みられた. 組織型は腺癌28例, 扁平上皮癌4例, 小細胞癌2例, 大細胞癌1例で, 病期はI期26例, II期2例, IIIA期6例, IIIB期1例であった. 非小細胞肺癌の予後は, 5年生存率79.9%で, n0では26例中2例のみ癌死, n1以上では7例中4例が癌死であった.

## 4. pN1肺癌切除例の検討

長崎大第1外科

永安 武

岡 忠之, 新宮 浩, 山本 聡

辻 博治, 原 信介, 田川 泰

綾部公認

1970年1月より1993年12月までに当科にて切除した原発性肺癌の中でpN1の症例は115例である. 男性87例, 女性28例で年齢は30~82歳, 平均61.6歳であった. 組織型は扁平上皮癌50例, 腺癌49例, 大細胞癌11例, 小細

胞癌4例, 癌肉腫1例で病理病期ではII期82例, IIIA期26例, IIIB期6例, IV期1例であった. T因子別の5年生存率はT1(n=23)50.6%, T2(n=61)47.6%, T3(n=26)31.7%でT4(n=5)の最長生存は7ヵ月であり, T1とT2間には有意差はなかったがT3, T4例はT1, T2例より有意に予後不良であった(p<0.05). 予後を原発巣の発生部位, 転移リンパ節の部位, 転移リンパ節数の点からも検討し報告する.

## 5. 超高齢者(80歳以上)肺癌手術症例の検討

北九州市立医療センター呼吸器外科

花桐武志

永谷信之, 小山倫浩, 永島 明

産業医大第2外科 安元公正

1992年より95年までに当科において手術を施行した原発性肺癌292例中, 超高齢者肺癌18名を対象とした. 男性11名, 女性7名, 最高年齢は87歳. 手術術式は肺葉・気管支管状切除3例, 肺葉切除91例, 区域切除1例, 部分切除5例であった. 術前の合併症は18例中14例がなんらかの合併症をもっており, うち5例は同時性, 異時性重複癌症例であった. 術後合併症としては, 重篤なものはなく, 薬剤治療を要した不整脈2例, 狭心症1例, せん妄2例, 気管支鏡下の吸痰を要した喀痰排出困難例は3例であった. 3生率は, 82.4%であった.

## 6. 摘出リンパ節における縦隔リンパ節転移診断について